

2026 年度 臨床心理学科 リフレクション入試【面接重視型】課題について

臨床心理学科のリフレクション入試(面接重視型)は、次のような手続きで行われます。

- インターネット出願サイトより、エントリーをし、出願書類を提出してください。

※エントリー方法・必要な書類は「リフレクション入試ガイド2026」4 ページ参照

- 面談では、提出されたエントリー確認票とリフレクションシートをもとに、進学の目的や入学後の学修計画などについて一緒に考えたいと思います。

- 試験では、作成していただいた課題レポートをもとに、面接と口頭試問、グループディスカッションを行います。これらの詳細は以下に記します。

「課題レポート」の作成について

◎まず下記の課題図書を手に入れてください。

山内太地・小林尚(著)『最高の職業と進路が見つかるガイドブック』KADOKAWA 1500 円 + 税

〔本書の概要〕 本書は、皆さんの進路(進学や就職)について考えるきっかけを与えてくれます。本書を手にとって自身の将来について考え、さらに具体的な行動につなげていってほしいと思います。本書は、4ページを単位とした「THEME」(テーマ)に分かれており、総計50のテーマについて考えるきっかけを提供してくれています。

◎課題レポートの内容について

50のテーマの中からいくつかのテーマを指定します。そこに書いてあることと照らし合わせ、皆さん自身の現在のあり方(今どうであるか)、および将来のあり方(これからどうなりたいか)について詳しく考えて、課題レポートとしてまとめてほしいと思います。

指定するテーマは以下にあげる 5 つのテーマです。熟読した上で、それぞれテーマについて問いかけに回答してください。

なお、50 のテーマ間には関連があります。指定したテーマとは異なるテーマを参考にしても構いません。その場合、回答の際は、指定されたテーマとは別のテーマを参考にした場合は、どのテーマのどの部分を参照したかがわかるように書いてください。できるだけ本書全体を把握して、個々のテーマについて書いてくれることを期待します。

5つのテーマ

THEME 40 仕事ができる人ってどんな人？（174 から 177 ページ）

この部分を読んで、何を思い、考えましたか。現在や将来のあなたのあり方との関連で述べてください。

THEME 41 個性って何？ 能力って何？（178 から 181 ページ）

この部分を読んで、何を思い、考えましたか。現在や将来のあなたのあり方との関連で述べてください。

THEME 42 大学に入ってなんだかガッカリした……（182 から 185 ページ）

大学はあなたの期待や好み通りではないかもしれないと、ここには書かれています。また、そういう大学でどうしたらよいか、その具体的方法が示唆されています。これらのことを読んで、あなたは札幌学院大学での大学生活をどのように送ろうと思いますか。

THEME 44 必要とされる人間になるために、大学時代にできることは？（190 から 193 ページ）

ここに書いてあることを参考にして、あなたの将来像(こうなりたい、こうありたいという姿)を描いてみてください。その将来像に対して、あなたに足りていること(既に身につけている能力、大切にしていきたい長所など)、足りていないこと(改めたいところ、補っていききたいところ)を具体的に述べてください。その際、なぜそれらが将来像に関係するかがわかるように書いてください。

THEME 45 無名大学の学生でも就活で逆転できるの？（194 から 197 ページ）

どの大学が無名であるか有名であるかにこだわることなく、入学した大学と就活を直結させて考える必要がないことがここには書かれています。あなたが札幌学院大学心理学部に入学したとして、その環境をあなたはどのように生かせるでしょうか。どういうことを利用し、何をして、どうなりたいと思いますか。

◎「課題レポート」について文字数は問いませんが、A4 版の用紙(片面のみ使用)を使用してください（このホームページで指定したレポート提出用紙（様式10号）を使用してもしなくても結構です）。言いたいことを的確に、簡潔に述べることが期待されます。

◎「課題レポート」は、必ずコピーを取って手元に置いておき、試験の時必ず持参してください（グループディスカッション中に使用します）。

◎提出の際は、原本の方を提出してください。

口頭試問およびグループディスカッションについて

試験では、まず一人ひとりに面接とあわせて口頭試問を実施します。そののちに何人かのグループを作り、グループディスカッションを実施します。

口頭試問では、答えが明確には定まらない問題に対して、筋道立てて考えて、一定の答えを作り説明する力をみます。うまく考えられることや、上手に解答できることなどとは別に、そのような解答になったのはどういう理由かを話していただきます。

みなさんの答えが「正解」である必要はなく、むしろ思考の筋道や説明が適切かを評価します。

グループディスカッションでは、提出してもらった「課題レポート」で扱った5つのテーマのうち、「THEME 42 大学に入ってなんだかガッカリした……」、「THEME 44 必要とされる人間になるために、大学時代にできることは?」、「THEME 45 無名大学の学生でも就活で逆転できるの?」の3つから、当日一つのテーマをこちらから指定します。どれが指定されるかは当日までわかりません。

そのテーマについてグループの皆で話し合い、制限時間内に合意した回答を提示してください。ホワイトボードを用意しますので、合意した回答がそこを見ればわかるようにしてください。そして、誰が当てられても書かれたことをちゃんと説明できるようにしてください。どのようなことを話し合うかは下記に示す通りです。

テーマは相互に関連しているので、選択されたテーマ以外の内容に触れたり、参考にしたりしても結構です。

[話し合ってほしいこと]

選択されたテーマに関連する最高の(最も有意義な)大学生活とは、どのようなものであるか。それは、どのように行動していくことによって実現されると思うか。理由も添えること。

以下に、グループディスカッションの注意事項をいくつか挙げておきます

- 話し合いの時間は30分しかありませんので、当日すぐに話し合えるように、万全の準備をしてきてください。たとえば、どのように話し合いを進めていったらよいか、自分はどのような役割を果たしたらよいか(実際に果たせるか)などについて、よく考えておくといでしょう。

- 課題図書『最高の職業と進路が見つかるガイドブック』、および各自が書いた「課題レポート」

を持ち込んで、話し合い中参照しても結構です。話し合い中の、メールやLINEなどによる通信、通話、インターネットによる資料検索、写真撮影などは禁止ですが、各自メモを取ること、立ち歩きはしても構いません。

- グループディスカッションにおいて、みなさんが評価される項目をあげますので、参考にしてください。

集団面接でみなさんを評価するポイント

1. 話し合い中の役割について

みなさんが果たすべき役割として、次のようなものを期待しています。どのような役割を、どの程度果たせたかを評価します。どれかに徹底してもよいし、多様な役割を果たしてもよいですが、グループ全体として全ての役割が現れることを期待します。

皆が安心できる集団づくりに貢献する役割

励まし役	他人の発言や行動を肯定する言動を行ない、集団の活動を活発にしようとする
行き詰まり打破	対立や行き詰まりが生じた時、打開策や妥協案を出したり、 逆にそれらの案を他人が出せるよう働きかけることができる
対立の緩和	集団内の対立、衝突をやわらげたり、未然に防ぐごうとする
会議進行法のチェック	話し合いのやり方が、適切か、皆が納得できるか、 別のやり方がないかを確認しようとする
交通整理	みんなが発言、参加できるように、メンバーに促しや抑制をすることができる
気分の見える化	メンバーの感情や漂う雰囲気を言葉にまとめ、全員で共有しようとする たとえば、「意見が出にくい雰囲気になっている」「焦らず行こう」などの声かけ

生産的な集団づくりに貢献する役割

イノベーター	目標達成に向けたアイデアや行動を、率先して行なうことができる
まとめ役	それまでの話し合いや発言を要約して、その後の話し合いをやりやすくする
積極的なフォロアー	イノベーターに続いて、目標達成に向けた追加意見を出したり、 行動を積極的に起こす
合意確認	それまでの話し合いや発言について、 メンバー全体に「これでいい?」と合意を確認する
意見の求め役	目標達成に向けたアイデアや行動が必要な時、 他人を促して意見を求めることができる
反論者	目標達成に鑑みて「間違っている」「ずれている」と思った意見や行動に対して、 よい結論を導こうとする態度をとるもなわせ、勇気を出して指摘、反論することができる
深め役	発言内容の曖昧な点、疑問が残る点を明確にし、よりよい話し合いを促す

2. 集団の活動を阻害しない

集団が目標を達成する(今回ならば「ベストな改善計画の提出」)ことに対して、マイナスに作用するようなことをしない。

容赦ない否定、非難をしない	相手の言い分を聞くことなく、相手の発言や態度、行動を 頭から否定したり、非難したりしない
---------------	---

(優柔不断や八方美人であることを勧めているわけではありません)

課題の準備不足がない

集団の目標達成を阻害するような準備不足がなく、

課題に十分取り組んできたことが話し合いの中でうかがわれる

話し合いへの準備不足がない

集団での話し合いが円滑に行くよう、無駄な時間ができることのない

よう、話し合いの仕方、進め方に対して十分な準備をしてきたことが話し合い
の中でうかがわれる

3. 個人の資質について

話し合いの内容や活動の様子からうかがい知れる、個々人の能力を次のような点で評価します。

主体的である

みずから進んで役割を果たしたり、発言、提案を行ったりしている

協調的である

他の人の能力や特性、動きに合わせながら、共に目標に至ろうとしている

他の人に力を貸したり、励ましたりしながら、共に目標に至ろうとしている

論理的である

発言や提案、意見が他人を納得させるだけの根拠、理由に支えられている

思いつきでなく、計画的に話し合いを進めようとしている